

音楽と豊かに関わるための 「省察」の実践



秋田大学教育文化学部附属小学校 音楽科 小林 葉子

大山 光子

音楽科における**自律した学習者**

自分の思いと知識や技能の習得
を往還させながら、音を通して表
現できる子ども



音楽科 昨年度までの成果と課題

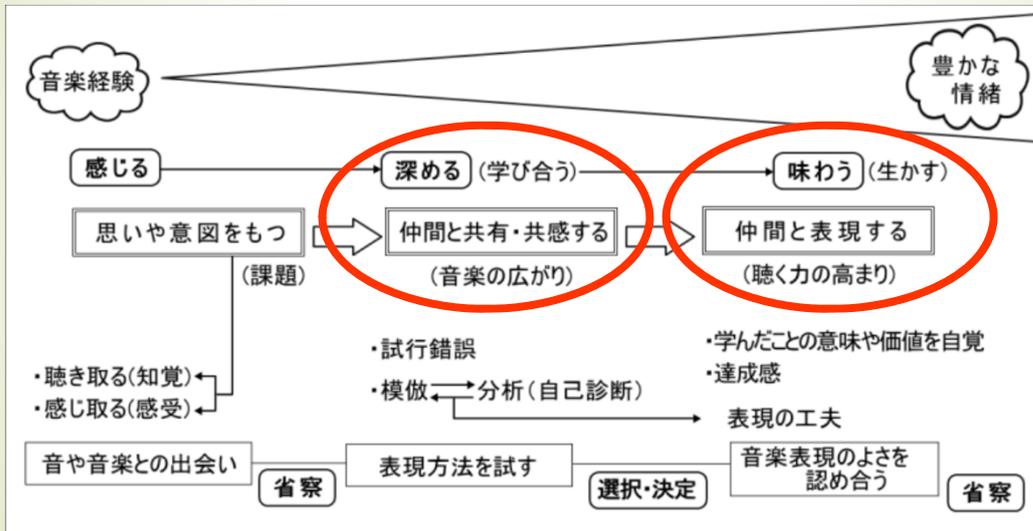
- 成果
- ・聴き合うことで、音楽的に高まっていくことができる省察の工夫
 - ・視点を明確にして音楽的な活動を積み重ねていくことで、音楽的な「見方・考え方」を自覚的に用いる題材構成
- 課題
- ・聴き合う活動で、アドバイスや感想がどの程度音楽的な「見方・考え方」に基づいているか。

音楽科研究テーマ

音を奏でる楽しさを味わい、思いと音を重ねる子どもを育む学び

- 重点1 試行錯誤を通して、効果的な表現方法を試すための手立ての工夫～**少人数によるアンサンブル活動の活用**～
- 重点2 音楽的な「見方・考え方」を働かせて、互いに聴き合うことで「聴く力」を高める省察の工夫
～**聴く耳を育てる**～

音楽科学習のプロセス



実践1 少人数アンサンブル活動の中での省察



2年
「おまつりの音楽を楽しもう」

秋田大学教育文化学部附属小学校
音楽科部 小林 葉子

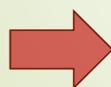
鑑賞からスタート

- 津軽じょっぱり太鼓（青森県弘前市）
- さんさ踊りの太鼓（岩手県盛岡市）
- 御陣乗太鼓（岩手県輪島市）
- 八丈太鼓（東京都八丈島）

おまつりみたい

たいこの音が
重なっている

かけ声が入っている



たいこの音楽って楽しそう！
やってみたい！

たいこのリズムをつくる

1 たいこの音やリズムを 声で表してから打つ

♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
ドン	ドン	ドン	(ウン)	ドン	ドコ	ドン	ドン
♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
ドドンコ	ドン	(ウン)		ドコ	ドコ	ドコ	ドン

➡ 自分のリズムをつくりたい！

たいこのリズムをつくる

2 自分だけのたいこのリズムをつくる

既習

- ① たいこのリズムを 声で表す
- ② たいこのリズムを 声と手拍子で表す
- ③ たいこのリズムを 声で表しながら、手で打つ
- ④ たいこのリズムを 声で表しながら、ばちで打つ

**楽譜と声とばちの動きが
ぴったり合うことが大切！**

たいこのリズムをつくる

2 自分だけのたいこのリズムをつくる

(はく) ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡

声で

(はく) ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡

OKI 声で

(はく) ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡ ♡

OKI 声で

1人で確かめながら
何度もつくり直す

友達に聴いてもらって
確かめる

友達とたいこのリズム
をつなぎたい!

グループでたいこのリズムをつなぐ

- リレーでつなぐ
- みんなで重ねて打つ

- 困ったな…
- △ばちは初めて→音が小さい
 - △「ドンドコ」の音が小さい

おまつり みたいにしたい

- たいこの音が大きくなる
- 「ドンドコ」大きくなる
- かけ声を入れる
(つなぎ 始め 終わり)
- 拍打ちをする

- 困ったな…
- △かけ声控えめ
 - △手の振りが小さい
 - △下(楽譜)を見ている
 - △「いっせーのーで」で始めるグループも

グループでたいこのリズムをつなぐ

手の振りが
小さい…

うまく始め
られない…



かけ声が
小さい…

グループでたいこのリズムをつなぐ

もっと **おまつり** みたいになりたい

楽しい

にぎわっている



どうしたらいいかな？

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・たいこの音やかけ声を大きくする ・手の振りを大きくする ・顔を上げて打つ | <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れにのって打つ ・始め方や終わり方を工夫する |
|---|---|

グループでたいこのリズムをつなぐ



どんどん **おまつり**
 みたいになってきた



今度は みんなでつなぎたい！



成果と課題

- 繰り返し学んで身に付けた，友達とつなぐという「見方・考え方」を使って，友達と対話を重ねながら新たな音楽づくりに取り組むことができた。
- 子どもの困り感に基づいて授業を展開したことにより，子どもたちが音楽に主体的に関わって技能を高め，生活の中で生きる音楽へとつながっていった。

- △一人一人の技能を見取るための時間と場の確保。
- △変容を自覚させるための振り返りのもち方。

令和2年度 音楽科実践発表資料

実践2 聴き合う活動による省察 ～よりよい音楽表現を目指す授業づくり～



6年音楽科
豊かな表現で
～思いをもって自分たちの合唱をつくろう～

秋田大学教育文化学部附属小学校
音楽科部 大山 光子

これまでの課題

自分なりの思いや意図をはっきりと持たないまま活動していく様子



自分に合うパート

7

ここにある世界のパート決めを自分であったテノールにしました。

自分の声を知る

自分はソプラノで変わるかもしれないけど音程をずれないようにしたい。強弱には特に気を付けたい。

一回曲を聞いてクラスでえらんでよかったと思いました。テノールを歌うのが大好きです。

曲への思い

自分のパートは、ソプラノはなつたので、アルトや、テノールに打ち消されないようにしたり、ソプラノのよさを生かしていき

バランス

他のパートの音も聞きながら音量を調整し、声に残るような重なりにしています。
COSMOSと同じように息の通るところを注目し、

歌うからだと、最初は高い音が出にくな
たからテノールに入、たけど、まだ高い音域を
歌えることが分かりアルトパートに入、た。

積極的に歌う心を失わせない工夫

自分の声を知り修正する

パート練習

アンサンブル活動の活用

8

各パートでの課題設定



練習方法の工夫



各パートでの省察

見方・考え方

◎一人一人が自信をもって歌えるようになる

技能の向上

パートでの課題設定

9



◎ 音楽的な見方・考え方に基づいて

練習方法の工夫（子どものふり返りから）

10

- ・パート練習で、一人ずつ歌ったり工夫してやったら音がとれるようになって、自信をもって歌えるようになりました。（A児）
- ・ソプラノパートでは、少ない人数のグループで歌ったりすることで、細かいところまで、できていないところが分かった。（B児）
- ・少人数で歌って、しっかり音がとれているか、言葉がはっきりしているかに着目して、聞くことができた。（C児）
- ・少人数のグループで歌い、自分がどこが歌えて、どこが歌えていないのかを知ることができたので、ますます上手になれた。（D児）

◎ 個の技能向上の必要性に気付いた **少人数の有効性**

パート内で省察する姿

11



◎できていないことを確認する

合唱づくり

聴く耳を育てる

自分たちの演奏を聴く

客観的に聴く



課題を見つけ出し合う

共有する

協働的な省察

◎仲間とよりよい音楽表現をめざす

達成感

12

成果と課題

- 録音した演奏を聴く活動(客観的に聴く)は、できていないことやよさに気付くことができ、自分たちの変容を自覚できる省察のためのフィードバックとして有効。
- よりよい表現を求めるには、協働的なフィードバックが効果的。

- △よりよい表現を求めるには、一人一人の技能が不可欠。意欲を失わずに技能を高めていくには？
- △合唱部員や吹奏楽部員の役割(音楽的な価値付け)が大きい。モデルとなる有効な教材を計画的に蓄積していくことが必要。

音楽と豊かに関わるために ～成果と課題～

- 子どもの実態に合った題材で、仲間と共につくり上げる音楽科ならではの充実感や達成感を味わうことができた。
- やり直す機会を十分に確保したことで、よりよい音楽表現へとつながっていった。

- △表現力の基盤となる一人一人の技能の見取り方・高めていくための手立て。

参考文献 ・小学校学習指導要領解説 音楽編 2018 東洋館出版社